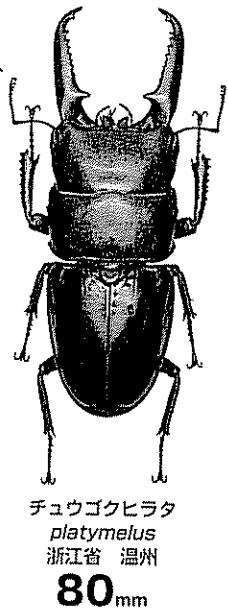
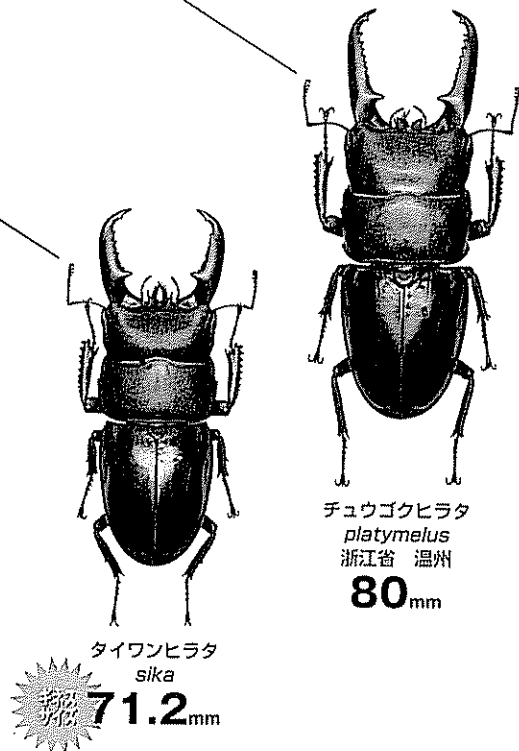
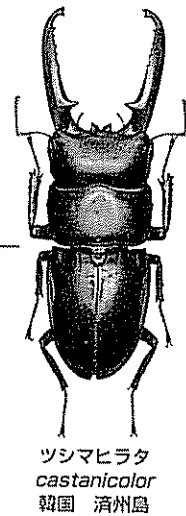
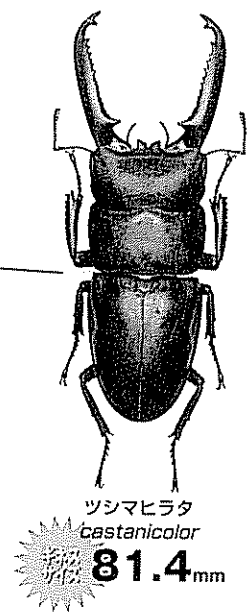
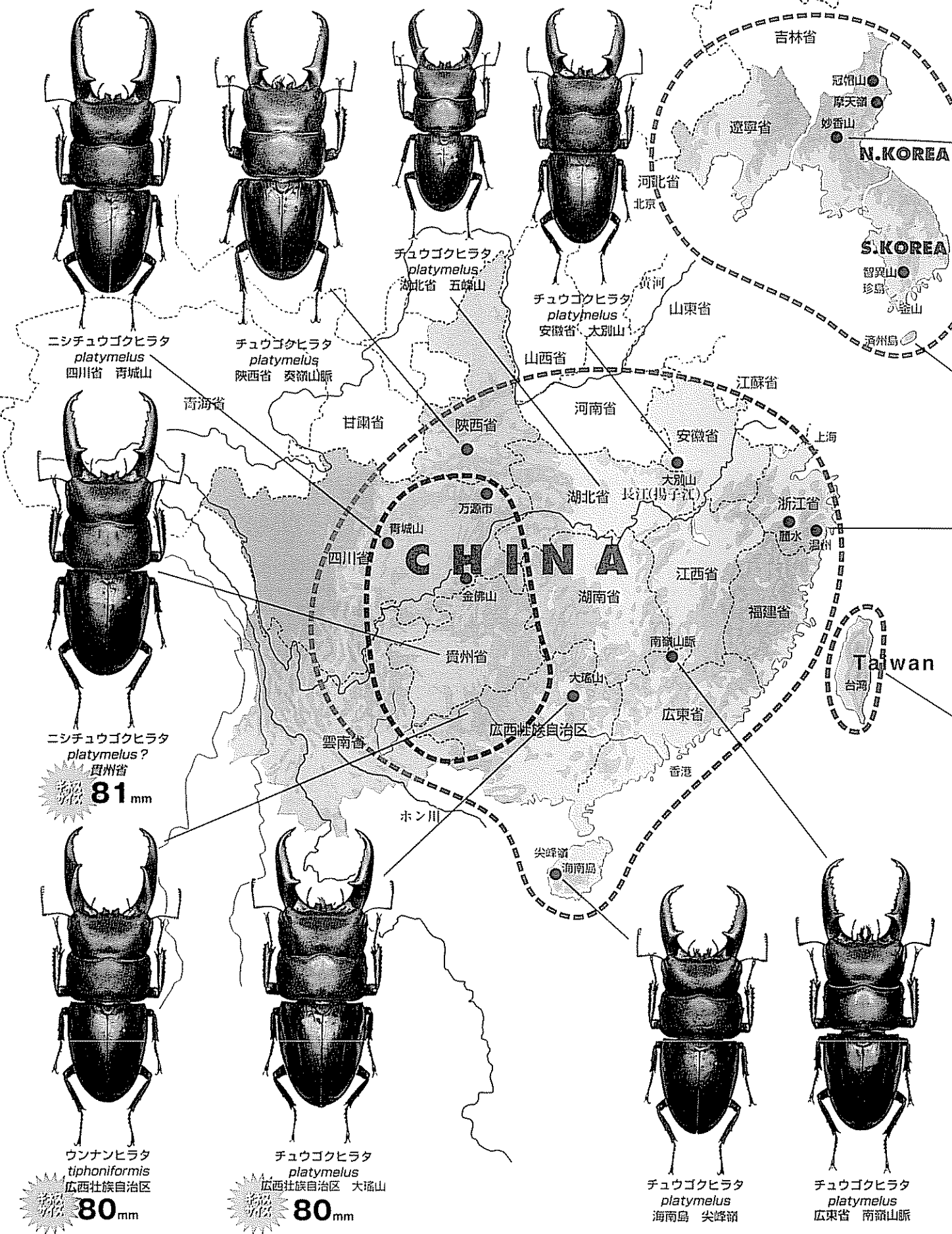


## 中国・台湾・朝鮮半島の ヒラタクワガタ



日本では対馬のみに分布している*castanicolor*も、朝鮮半島には広く分布しており、中国・遼寧省あたりのヒラタもこの亜種に含まれる。

昆虫の変異や分布を考える時、人間が作った環境などの境を考えても意味はない。クワガタも自然の地形の影響を受けて、長い時間をかけて特化して、現在の姿があるはずである。虫によって重要となる要素は多少異なるが、まず「海」の存在がもっとも強い棲み分けの要因だろう。「大きな川」も、虫の行き来をはばむ存在になりうる。平地～低山にしか住めない虫にとって、高い山は乗り越えられない壁となるし、逆に高山性の虫にとっては平地は海と同じ意味をもち、住むことができない。

広大な中国大陸には、ヒラタのいくつかの型、あるいは亜種と思われるものが見られるが、信頼性の高いデータの標本が少ないという困った点も相まって、その分析は難しい。

まず、北は黄河を境として、黄河以北はもっとも大あごの長い*castanicolor*の分布域と考えられる。一方、ベトナムの昆虫に詳しい葛倡彦氏によれば、ベトナムのホン川をはさんで、北のTam Daoなどには大あごのやや長い中国タイプのヒラタがいて、ホン川より南の地域にはインドシナ半島タイプのヒラタがいるという。ホン川はそれほど巨大な川ではないが、この説に従えば、ホン川より南は*westermanni* の分布域とすることが可能になる。

この、北は黄河、南はホン川にはさまれたかなり広大な地域に *platymelus* は分布している。*platymelus* は1854年にSaunders氏によって記載されたが、今から150年前の記載なので、産地も「the tea distrincts of China」(中国のお茶の産地) としか書かれていない。のちに文献で「福建省・広東省」が産地としてあげられているので、おそらくこのあたりで採集されたものなのだろう。

この *platymelus* の分布域には、1. 貴州省や四川省などの西部で採集されている *castanicolor* に次いで大あごが長い型、2. 中国南部で採集されている大あごがやや短い型（日本本土の *pillifer* にもっとも似た個体が出現する）、3. 雲南省から記載され、四川省・貴州省・広西壮族自治区でも採集されている (?) *typhoniformis* という型、の少なくとも3型が認められる。揚子江のような大河を利用して、うまく区切ることができればわかりやすいのだが、データを鵜呑みにできない標本が少なくないので、推測にも限度がある。

福建省の対岸の台湾には *sika* という別亜種が分布している。広東省南部の海南島に分布するヒラタには、体型がこの台湾亜種によく似た個体がいる興味深い。